竹田城跡のふもと寺町通り
線路沿いの静かな町並みに
石仏や石橋に刻まれた文字を読む

裏路地探険

石に刻まれた歴史をたどる／和田山町

古城山（標高353.7m）の頂に、どっしりとした石垣の姿を見せる竹田城跡。戦国時代、この地を舞台にどのような物語が繰りひろげられていったのでしょうか。その歴史をたどる路地が、山のふもと竹田城主の菩提寺などが建ち並ぶ寺町通りにあります。かつては、武家屋敷があったところ、慶長・宝永・明治と大火にあい、その後復興してできた町並みと言われています。

瓦屋根に白壁の駅舎、JR播但線竹田駅から探険へ出発。側にある高架下をくぐり寺町通りへと抜けます。線路で隔てられた山裾の一角。目の前には山が迫り、木々の切れ目から頂を見上げると、意外にも間近に竹田城跡を確認することができます。少し進むと、見事な松の並木、石垣に白壁の塀、大きな門構えの4つの寺が続きます。竹田の歴史をさかのぼるようにひとつひとつの寺を訪ねて行きます。

最初にある寺、法樹寺は竹田城最後の城主となった赤松広秀の菩提寺。現在のような豪壮な石積みの城郭を築き、文人としても優れ領民から慕われる武将でしたが、関ヶ原の合戦で西軍に属し敗北。その後、鳥取城攻めで、鳥取城下に大火を放ったとされ自刃します。次にある勝賢寺は、広秀の前の城主、桑山修理太夫重晴ゆかりの寺。重晴の嫡子夫妻の墓碑と伝えられる五輪の双塔が庭にあります。常光寺は初代城主太田垣光景の菩提寺。光景は、但馬の守護大名山名宗全の四天王の一人で、土塁をもとにした竹田城を13年を費やして築いたと伝えられています。しかし、織田信長の命による羽柴（豊臣）秀吉の但馬征伐により敗北。石塔が光景の墓碑として残っています。慶長5年（1600）、城主をなくしてからは、銀山代官所の幕府直轄領（天領）となります。

最後の並びにある善證寺は古い歴史を持つ寺。それぞれの寺にかかる石橋は全て江戸時代につくられたものですが、その中で最も古い宝永4年（1707）の文字が常光寺の橋に刻まれています。但馬で確認されている江戸時代の石橋7つの内の5つがこの竹田に集中しています。

寺を抜けても静かな佇まいの民家が続き、家の前の川には錦鯉が放たれ、色とりどりの花が咲くプランターが並べられた、歴史散策の心和む空間がつくり出されています。つきあたりには、全国でも大変珍しい半円形に六段の石積みの桟敷席がある表米神社へ昇る石段へとたどりつきます。山へ向かって続く長い階段、途中からは、竹田の町並みが見下ろせます。造り酒屋さんの長い煙突、旧街道として栄えた町屋、時折、路地をさえぎるように走り抜けていく列車も違和感なく生活のリズムにとけ込んでいるように見えます。城下町独特の風情を持つ竹田地区は、昨年11月、県の景観形成地区に指定されました。

竹田は古い歴史を持ちながら、再三の大火にあい、記録となる文献が少ないとされていますが、石塔や石仏、石碑などに刻まれた文字が竹田の歴史を知る手がかりとなります。辻外れの小さな祠に佇む石碑にも、側面や裏面に回ってみると、誰が何のために建立したのか、かすかな文字が読みとれます。

竹田城跡の石垣に象徴されるように、石をたどると竹田の歴史を知ることができます。

協力：和田山町・和田山町観光協会

●裏路地探険隊員募集

7月31日（土）浜坂町探険
迷路のように入り組んだ路地を歩く
＊実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、ハガキでお申し込みください。

JR竹田駅～寺町通り

山頂にそびえる国史跡指定竹田城跡のふもとにひろがる町並み。
JR播但線竹田駅の周辺や、竹田城城主の菩提寺などがある寺社が建ち並び城下町独特の雰囲気を醸し出している。

但馬の情報誌T2 Vol.35／1999年7月発行より抜粋